提言145 「生成AIと探究が拓く新たな学び」

現行学習指導要領では、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」として位置づけられ、その重要性が繰り返し強調されてきた。

これは、単なる知識や技能の定着にとどまらず、思考力・判断力・表現力を発揮し、学びを生活や社会に結びつけるために欠かせない力である。

こうした流れの中で、「情報活用能力の抜本的向上」と「質の高い探究的な学び」は、次の時代の教育の柱として明確に示された。

そのような中で、生成AIの登場は、学校教育にかつてない変革を迫っている。すでに生徒は、学校で教えるよりも先に日常生活で生成AIを使いこなし、あるいは誤用し始めている現状も見受けられる。

学校は今、「探究の推進」「主体的・対話的で深い学びの実現」、そして「働き方改革」という三つの課題に直面している。

これらを別々に捉えるのではなく、「生成AIの活用」と「探究の深化」を掛け合わせることこそが、教員の負担を軽減し、同時に生徒の真の学びを実現する鍵となる。

1　生成AIを教員の「働き方改革」のツールに

生徒の「情報活用能力」や「創造性」の育成は重要である。しかしその前に教員自身が生成AIの恩恵を実感しなければ、前向きな指導は始まらない。

校長のリーダーシップとは、まず「生成AIを教員の味方にする」という明確なメッセージを発することにある。

具体的な実践としては、次のような内容が考えられる。

(1) 校務の効率化

生成AIによる保護者向け文書の原案作成、アンケート集計の自動要約、成績処理の補助などを推進し、時短で得た時間を「早く帰る」や「子どもと向き合う時間を確保する」といった本来業務に充てる。

さらに、会議の文字起こしや要点整理を生成AIに任せることで、教員は議論の質を高めることに集中できる。

(2) 授業準備のパートナー化

生成AIを「伴走者」と見立て、探究のテーマ案や発問例、ルーブリック評価の叩き台を作らせる。

教員はゼロから生み出す苦労を減らし、生成AIの提案を吟味・修正するというより創造的な業務に集中できる。

こうして校務や準備の一部を生成AIに「アウトソース」することで生まれた時間と心の余裕こそ、「質の高い探究的な学び」を支える土台となる。

２　探究が拓く自律的な学び

次に、「探究」を生成AIによって「失敗が許される学び」として再定義したい。現状の探究活動は、依然として「正解探し」に偏る傾向がある。探究の本質は、答えのない問いに粘り強く向き合うプロセスそのものである。生成AI時代の探究は、「生成AIを使っていかに賢く問い、賢く間違い、深く考察するか」を学ぶ場である。

(1) 生成AIが思考の壁打ち相手

生成AIに「なぜ？」を深掘りする問いを提案させ、生徒がそれに反論・再考する。生成AIが出す「それらしい答え」の真偽を疑い、根拠を確かめる過程こそが「情報活用能力」を鍛える学びとなる。

(2) 心理的安全性の確保

生成AIは未熟な考えを否定せず、何度でも即時にフィードバックしてくれる。校長の役割は、「生成AIを使った探究に正解はない」「失敗を恐れず、生徒と共に挑戦しよう」というメッセージを教員に届けることである。

こうした文化づくりが、学校の学びの質を根底から変えていく。

３　試行錯誤を価値とする学校文化へ

生成AIと探究の実践は、最初から完璧を求める必要はない。

(1) 小さな試行の奨励

まずは一学年、一クラスから始め、挑戦したマインドそのものを評価する。成功例だけでなく、失敗の共有も価値ある学びとして校内研修で紹介する。

(2) ガイドラインの整備と共有

生成AIのリスクは無視できないが、「禁止」か「容認」かの二者択一ではなく、生成AIとともに「よりよく学ぶ力」を育てたい。

校長は「個人情報を入力しない」「出力内容を必ず確認する」といった現時点のルールを明示し、その範囲で一緒に学ぶ姿勢を示すことが重要である。

ルールは状況に応じて改訂していけばよい。

(3) 校長自身の実践と発信

校長自らが「生成AIを使ってみた」と語ることが、最も強力なリーダーシップとなる。「今朝の校長講話、生成AIに手伝ってもらった。

最初は思うようにならなかったが、指示を工夫したら改善した」といった率直な共有が、教員の挑戦意欲を喚起する。

校長の試行錯誤の姿を見せることが、「自分もやってみよう」という文化を醸成する。

４　一歩を踏み出すリーダーシップ

変革期における校長のリーダーシップとは完璧な計画を立てて指示することではない。生成AIと探究の融合は、単なる教育手法の刷新ではなく、予測不能な社会を生き抜く「学ぶ力」の育成につながるものであり、同時に教員の働き方を変える好機でもある。

最も重要なのは校長自身が教員とともに「まず一歩」を踏み出す姿を見せることである。

「O先生のクラスで生成AIを使った探究を試してみようか」—その小さな呼びかけこそが、学校全体の学びを変える確かな第一歩となる。

生成AIと探究の融合がもたらす新たな学びの未来は、校長のその一歩から拓かれていく。